

障がい学生支援センターだより

誰もがいきいきと学べる大学

第 2 号 CONTENTS

- ※ YU ハートサポーター活動報告
活躍中の YU ハートサポーターについてご紹介します！
- ※ 『教職員のための障がい学生支援ガイドブック』特集第 2 弾
特集 2 回目は、「障がいのある学生とのコミュニケーションのポイント」についてご紹介します！

4 月から「YU ハートサポーター」が活躍中！



昨年末、障がい学生支援技術を身につけた支援スタッフの愛称を、『YU ハートサポーター』（略称：ハトサポ）と命名しました。現在、YU ハートサポーターによる支援を利用しながら学ぶ学生が 2 名います。1 人は主に移動支援を、もう 1 人は主にポイントテイク支援（代わりにノートを取る）を利用しています。

その支援を担当するのが、「YU ハートサポーター」です。昨年度は 2 回、今年度は 1 回養成講座を実施し、現在 YU ハートサポーターは約 60 名います。

YU ハートサポーターは、利用学生の希望に耳を傾け、支援を担当してくれています。

後期も養成講座を実施予定です。ご興味のある教職員の方もぜひご参加ください！

YU ハートサポーターの活躍をぜひ応援してください！そして、引き続き、障がいのある学生への支援・配慮についても、ご協力のほど宜しくお願いします！



移動支援の様子



ポイントテイク支援の様子

誰もがいきいきと学べる大学

支援
学生

障がい
学生

関係
教職員

支援
センター

YU ハートサポーターの声

私は特別支援教育を専攻していることがきっかけで、ハトサポに参加しました。この活動の中で、私は多くの事を学ばせて頂いています。一番大きいことは、「私達が普通ではない」ということです。そして、ハトサポや友達による支援や優しさが、彼らにとって大きな助けとなることも気付きました。より多くの学生がハトサポに参加し、障害を抱える学生もより楽しく学生生活を過ごせたらと思います。

利用学生の声

入学した時はまだ制度が整っておらず、特別支援教育専攻の方のみに支援していただいていたのですが、この度 YU ハートサポーターの制度ができたことで、学部や学年を問わず、たくさんの方にサポートに入っていただいています。

支援の輪が広がっていると感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。自分がやりたいことは自分でできるように、体調に合わせて支援のしかたを変えてもらえることもとてもうれしいです。

『教職員のための障がい学生支援ガイドブック』をぜひご活用ください！ PART 2

昨年度末に配布しました「教職員のための障がい学生支援ガイドブック」、もうご覧いただけましたでしょうか？

支援ガイドブック特集第 2 回では、「教職員の皆さまへのお願い！」(P.5) の中で、**コミュニケーションのポイント**を取り上げ、ご説明します。

以下を参照いただき、日頃の窓口での対応や学生への声かけの際には、「**学生目線**」の対応をどうぞよろしくをお願いします！

視覚障害

- 声をかける際は、**当該学生の正面から呼びかけてください。**
- **急な休講連絡等、掲示板の重要な情報は、メール等で本人へ直接ご連絡ください。**

ポイント

※ 知り合いとすれ違っても気づくことが難しく、「自分に声をかけたのは誰か」も判別が難しいため、自分から名乗ってください。

例：「●●さん(視覚障がい学生)、こんにちは。▼▼(自分の名前)です。」

聴覚障害

- 口元や表情がわかるように顔を向け、**身振りや筆談等を交えて**はっきりとお話してください。
- **重要な情報は筆談で確実に**お伝えください。

ポイント

※ 聴覚障がい学生は、唇の動きや表情を読んで話を推察・理解しますので、マスクをつけている場合は、可能な範囲ではずしてもらえると助かります(風邪等の場合を除く)。

※ ただし、唇の動きだけですべてを理解できません。**筆談や身振り等、見える形で**伝えることが重要です！



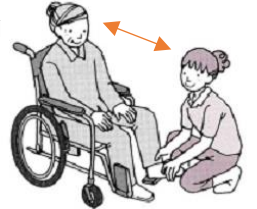
運動障害

- 車いす利用学生と話をする場合は、(可能な範囲で) **同じ目線**でお話してください。

ポイント

※ 車いす利用学生が立っている相手と話をする場合、**顔を上向きにする**必要があり、その姿勢が長時間続くと、**首が痛くなります**。自分も椅子に座って話す場を設ける、その場で少しかがむ等、同じ目線を心がけてください。

※ 発語が困難な学生の場合、話が聞き取れなかった場合は、**わかったふりをせず聞き返してください。**



発達障害

- 学生によってコミュニケーション上の特性がそれぞれ異なります。**学生の様子に合わせて**ご配慮ください。

ポイント

※ 「あれ」「それ」等の**指示語や曖昧な表現は避けましょう！**

例： × 「なるべく早めに提出してください」

→ 「『なるべく早めに』とはどのぐらい早いことなのか？」と混乱してしまいます。

○ 「□月△日☆時までに提出してください」と具体的に指示してください。

※ **聞いて理解することが苦手な場合** → 目に見える形で伝えるとよいでしょう。

例： ホワイトボードや紙に書きながら説明する。

※ **質問をしたり、話しかけても、すぐ答えがでない場合**

→ その人が理解しやすい方法で質問をすることが大切です。

— 簡潔な表現を心がける

— Yes/No で答えられる質問をする 等

また、考えがまとまるまで話さないこともありますので、本人の様子をみながら、答えが出るまで待つことも1つです。



そのほかにも、「教職員のための障がい学生支援ガイドブック」には、障がいごとに有効と思われる配慮について記載していますので、ぜひご覧ください！また、障がい学生への支援や配慮についてご質問・ご相談があれば、遠慮なく支援センターまでお問い合わせください。

障がい学生支援センター TEL: 023-628-4922 FAX: 023-628-4485 E-mail: shougai-shien@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ホームページ URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/scsd/>